

てんやく絵本ふれあい文庫 30 年の取り組みと、図書館に望むこと

てんやく絵本ふれあい文庫
代表 岩田美津子

主な講義内容

- (1) てんやく絵本とは：形態的特徴、製作における注意点、主な利用者。
- (2) てんやく絵本考案に至るまでの経緯：見える我が子と一緒に絵本を楽しみたかった。市販の絵本へのこだわり。
- (3) 文庫開設の動機とその目的：絵本の大切さと素晴らしさを他の見えない人たちにも伝えたくて。見えない私たちを取り巻く絵本の環境の改善を目指して。
- (4) 文庫開設後の主な出来事：郵送料無料化の実現、「チョキチョキ チョッキン」の出版、「点字つき絵本の週っパンと普及を考える会」の発足、絵本番組の制作、てんやく絵本講座の実施。
- (5) ふれあい文庫の現状：130 余名のボランティアによる運営。年間 300～350 冊のてんやく絵本の製作。全国在住の視覚障害者個人、施設に対し、年間 6000 冊前後の郵送による貸し出しサービス。その運営費は、賛助会費、一般企業・個人からの寄付、当法人が運営する地域活動支援センターに対する大阪市からの委託金から成り立っている。
- (6) 「点字つき絵本の出版と普及を考える会」について：発足の動機、会の基本理念、12 年間の取り組みの紹介。
- (7) てんやく絵本と点字つき絵本の違い：製作方法、形状、手触り感の違いなど。
- (8) これまでの図書館とのかかわりについて：まだてんやく絵本がなかったころのこと。てんやく絵本の普及に取り組む中で。
- (9) 図書館に臨むこと：まだ数少ない点字つき絵本の装備。それらの絵本についての知識を深め、見えない人のみならず、より多くの人に点字つき絵本の素晴らしさ

を広めていただきたい。

(10) てんやく絵本、点字つき絵本における今後の課題：文庫においては、運営の安定化、後継者の育成。点字つき絵本においては、製作コスト、技術、販路の問題からくる出版物を増やすことの難しさ。